

章 C の 1

大学英作文での interactive writing の原理と方法

意思決定と交流のある英作文授業

三浦 孝（静岡大学教育学部）

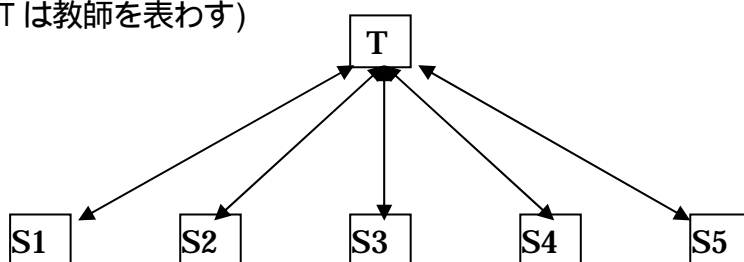
この項では、大学での英作文授業での学生間コミュニケーションの生起の仕方を扱う。ここで言う英作文とは、学生が自分のオリジナルな意見や物語を、ある程度の長さ（150語あるいはそれ以上）の英文で表現する形の英作文を意味する。そして、この授業を人間形成と関連づけながら展開する原理と方法を述べる。なお、人間形成とは、理論編で述べたように、クラスのメンバー同士が互いに人間的に価値ある意見や情報を交換することによって形成されるものと考えている。

（１）英作文授業での「作品による交流」をどう実現するか

自由英作文の授業には２つの「孤立」が存在する。図１は最も工夫の無い状態での英作文授業における教師と学生との関係を表している。

< 図１．従来の英作文授業の人間関係 >

(S は学生、T は教師を表わす)



従来の英作文の人間関係は、学生個々人が書いてきた原稿を提出し、教師がそれを添削して返すこと形である。これだけでは１クラスに何人の学生がいても、基本的には教師１人対学生１人の関係にとどまってしまう。つまり学生１人１人は互いに孤立した存在として教室で机を並べているにすぎない。

こうした授業の対話の特徴を、図示してみると、図２のようになる。ここでは対話は教師・学生間のみに１回存在し、学生同士の交流はゼロである。また、作文での学生の意思決定の機会はわずかに「何を書くか」を決める１回だけである。実は、クラスにおける作品間対話は、学生の意思決定の回数が多いほど成立しやすくなる。それはなぜか？意思決定回数が多ければ、他の学生の作品との間に情報のギャップ、意見のギャップが生まれ、それゆえに相互に読む価値が増えるからである。

自由英作文の授業では、こうした孤立の解消が課題となる。つまり、１クラスに大勢の学生がおり、それぞれがユニークな個人としての経験や思考・発想を持っているのに、そ

れらを互いに貢献しあう対話の機会が存在しないことが問題なのである。

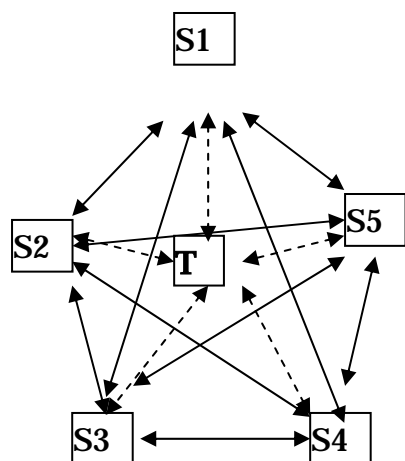
< 図 2 . 従来の英作文授業における対話の特徴 >

学生が行うこと	教師が行うこと	学生が行う意思決定と交流	
		意思決定	他学生との交流
<div data-bbox="220 593 435 667">作品を執筆</div> <div data-bbox="220 947 435 1048">自作への評価を読む</div>	<div data-bbox="560 741 783 853">教師が作品に添削・評価を与え</div>	「何を書くか」の意思決定	交流なし

相互交流型授業では、学生はそれぞれが教師との対話を持ちつつ、更にクラスメートとの対話をはりめぐらしている。これを英作文授業にも実現できないであろうか。個別指導の利点を生かしつつも、どうやって授業で学生同士がお互いにプラスに働きかける相互貢献ができるか、それが課題となってくる。図 3 はそのような英作文授業のモデルである。

< 図 3 . 相互交流型英作文授業のモデル >

(S は学生、T は教師を表わす)



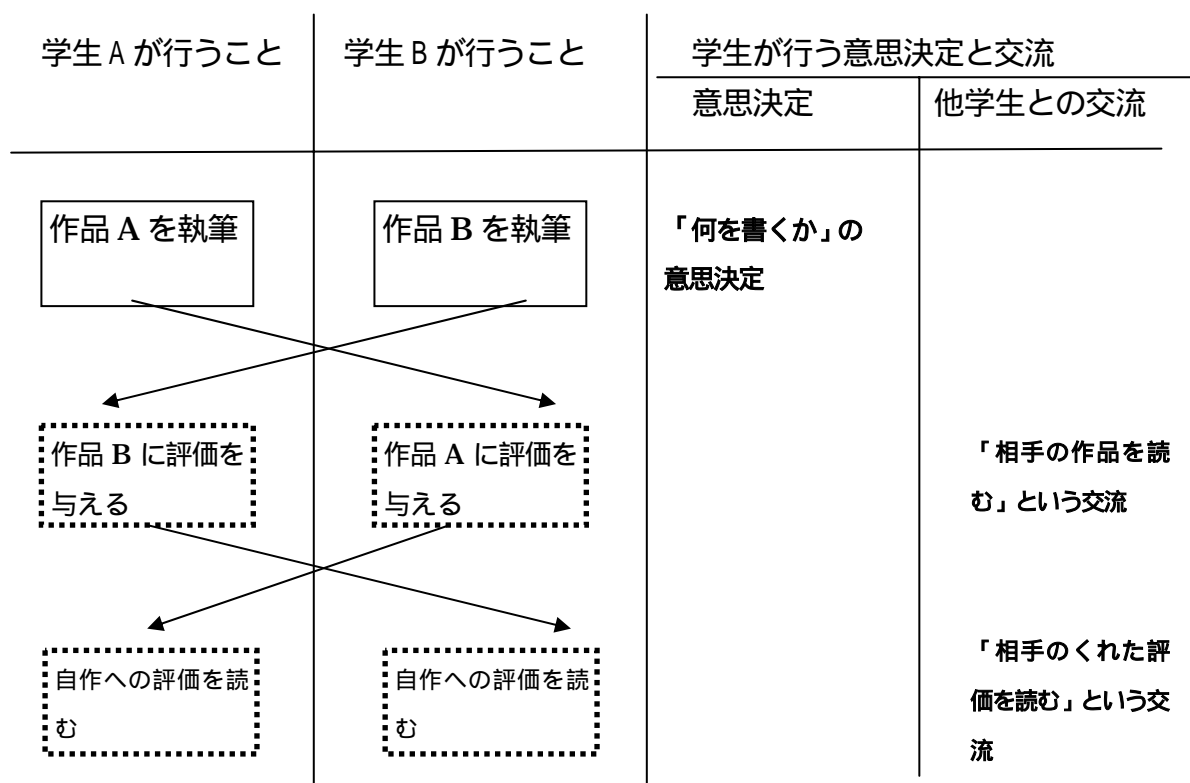
こうした努力として、以前から peer reading という手法が提唱されてきている。これは学生同士が作品を交換して読みあうことを意味する。peer reading には次のような利点があると言われている：

- 1) 他の学生の作品を読むことにより、論述構成や語法上などで、自分に無い工夫学ぶことができる。
- 2) 「他の学生に読まれる」ことを念頭に置いて書くことによって、書く側に「読み手」を明確に意識した望ましい執筆態度が養える。

更に、これを peer evaluation (相互評価) へと発展させれば、次のような利点が考えられる：

- 3) 一定の評価基準に従って、他の学生の作品を評価するプロセスを通じて、学生が作品を推敲するのに必要な鑑識眼が養われる。
- 4) これまで教師が行ってきた添削を、peer evaluation で学生相互に行わせることにより、教師の添削指導の負担が軽減できる。

Peer evaluation での学生の対話の図式は、次のようになる。なお、点線で囲まれた部分() が対話の場面である。ここでは、意思決定の数は 1 回、交流は 2 回となる。



こうした peer evaluation が持つ問題点として、筆者が peer evaluation を利用した経験では次のことが挙げられる。(これは筆者一人の経験に基づく観測であり、このことを実証するには大規模な調査が必要であることをお断りしておく。)

- 1) 学生が、同級生の作品を正しく評価できる保証が無い。(友人への遠慮から安易な誉め言葉を与えるに終始しがちである。項目別評価基準を与えておいても、その基準に照らした評価ができない学生がおり、自動的に学生の鑑識眼を育てられるとは言えない。評価者間の基準がちがうため、評価の公平性が確立できない。)
- 2) したがって、教師の添削の代わりとして peer evaluation を用いて評価するのは、公平性に欠ける。Peer evaluation を用いても、結局そのあとで教師が再度評価しなおす必要がある。

また、学生からも、次のような声が出されている。

- 3) 「以前の英作文授業で peer evaluation をやったけれども、私はあまり好きではありませんでした。宿題として書かされた英作文をただ単に学生相互に添削するだけでは、英作文の内容や他の人の意見をシェアするというよりは、他人の英文の間違いを指摘するにとどまっていた。」
(2005 年受講学生の回想)

上記の学生の声にも関連することだが、作文添削の孤立の問題は、peer evaluation だけでは解決できない。なぜなら、peer evaluation では学生の意思決定と相互交流の機会がさほど増えていないため、互いの作品を読むための動機づけも読み合う回数も少ないままなのである。なぜ意思決定の機会が問題になるかということ、意思決定の自由が学生の作品間のインフォメーションギャップやオピニオンギャップを発生させ、そのギャップがあればこそ、他の作品を読む意義が生まれるからである。

(2) インタラクティブ・ライティング(複合対話型の自由英作文活動)

そこで考案したのが、学生の意思決定と相互交流の機会を飛躍的に増やすことができる交流型のライティング活動である。ここでは作品は幾つかの交流場面を経て、交流の中から有機的に生み出されてゆく。これによって授業は孤立した添削の限界を越え、学生 1 人 1 人が、個人としてクラスに独特のアイデアを貢献し、英作文の form と content の育てあいが生まれる。

以下に述べるのが、インタラクティブ・ライティングの基本設計である：

活動の目的：この活動ではリラックスした交流を楽しむことを第一目標とする。学生に関心ある話題で各自が英語で意見を書き、それを share して language form, message content, individual uniqueness を交流する。

活動の流れ：連続した 3 回の授業で交流をつみあげてゆく。1 回～2 回は準備であって、ほとんど時間はかからない。3 回目の活動が交流のメインとなる。

教師の役割：望ましい交流が生まれるよう、facilitator の役割を果たす。学生作

品へのコメントをする際には、一読者として反応する立場を取り、英文添削は軽く行う。

以下に、この基本設計に基づく 5 種類のアクティビティーを紹介してゆく。まず代表例として、「人生相談への回答書き」を紹介する。

1) インタラクティブ・ライティングその 1：人生相談への回答書き (第 1 回授業で)

クラスの学生のうち 4 名を選び、翌週までに人生相談の手紙を作成し、クラス人数分のコピーを用意するように指示する。手紙は資料 1 のような構成とする。(所要時間 5 分)

資料 1 . 人生相談の手紙のサンプル

Dear All,

I work part-time as a cashier at a supermarket. I have been working there for one year. Recently I have wanted to change my job because cashier is a little bit boring for me. Although my pay is higher than most of other part-timers, I am tired of working there. Is it better to continue the cashier's job for saving money, or find a new , more enjoyable one? Please give me some good advice.

Sincerely Yours,

Cashier at a supermarket

用紙の上半分に相談の文を書く。全体で 150 語以内とする。

相談内容は、新聞・雑誌等から取ってもよい。あるいは誰かの悩みを取り上げたり、自分で創作して書いてもよい。

相談の最後に、相談者の名前を書く。

(第 2 回授業で)

(ア) 4 人の当番が用意した 4 種類の人生相談の手紙を、クラスに配布する。それぞれが、相談手紙を読み上げ、内容を簡潔に解説する。相談文はできるだけ学生の原文のまま配布するが、内容理解や回答書きに支障を及ぼす不備がある場合には、教師が援助して修正する。

(イ) 次回までに 4 種類の相談のうち、どれか 1 つに、資料 2 のような様式でアドバイスを記入してくることを宿題として課す。(アとイで所要時間 5 分)

Dear All,

I work part-time as a cashier at a supermarket. I have been working there for one year. Recently I have wanted to change my job because cashier is a little bit boring for me. Although my pay is higher than most of other part-timers, I am tired of working there. Is it better to continue the cashier's job for saving money, or find a new , more enjoyable one? Please give me some good advice.

Sincerely Yours,

Cashier at a supermarket

Dear Cashier,

I understand your feeling. Are you working to save a certain amount of money to do something special or just to have some more allowance? If you really need a lot of money for some purpose, you should continue the cashier until you have saved it. If not, I think you should have another kind of job which you are interested in. Part-time job experience is really important because it gives you a good hint about your future career.

I was in your place two years ago. I was a cashier at a supermarket and I didn't like the staff there, so I wanted to quit. However, my pay was really good. I thought about that and I decided to continue working there because I needed to save money for a motorbike. A year later, I finally saved enough money and then I quitted it. Now I have another job and I really enjoy it.

School days are really short and there are so many things that we can do only now, so don't waste time doing boring things.

Sincerely Yours,

Satomi

(第3回授業で)

次のように作品の sharing(交流)を行う。(所要時間 15 分)

(ア) どの相談に、何人が答えて来たか、挙手で人数を調査する。

(イ) 同じ相談に答えて来た学生を 6 名ほどのグループに集めて(大勢いる場合には複数グループとする) 座席を指定し、集まって作品を順に回して share する。椅子だけを丸く並べて膝つきあわせて座るようにするとよい。時間は、10～15 分程度とする。

(ウ) 学生はクラスメートの作品を読みながら、内容優先で読んでゆく。気づいた所には下記のようなコメントを記入する。

- ・意味が十分に通じていない箇所には下線を引き「？」と記入
- ・もっと説明が欲しいと思われる箇所には下線を引き「要説明」と記入
- ・自分も大いに賛同・共感する部分には「同感！」と記入
- ・明らかに英語のミスだと思われる箇所には、その箇所の下に黒鉛筆で訂正を記入

(エ) 時間が来たら sharing を終了し、自分の席に戻る。ここで sharing で見た他の学生の作品や、クラスメートからもらったコメントを参考に、原稿に修正を加えてもよいこととする。(1 分)

(オ) 作品はいったん、相談の手紙の作成者に集約する。これは、作成者本人にとって最も関心ある情報だからである。相談作成者は、集まったアドバイスを授業後に全部読んだ後、教師に全部の作品と読後レポート 'What I learned from my classmates' responses' (200 語程度)を提出する。

(カ) 教師は提出された個々の学生作品に一読者としてコメントし、軽く英文添削を行い、総合的評価を与えて次回に返却する。総合的評価は、内容・英文共に良くできたものを A、やや不備のあるものを B とする。C は、十分なアドバイスとして成立していないものに付ける。なお、たとえ教師の信念に反するアドバイスであっても、首尾一貫しておれば良しとし、批判を加えることは差し控える。

表 1 . インタラクティブ・ライティングでの意思決定と相互交流の回数

	学生の意思決定の機会	相互交流の機会
従来の peer evaluation	全員が 1 回	全員が 1 本と交流
インタラクティブ・ライティング	全員が 3 回 相談文作成者は更に 2 回プラス	全員が 9 本と交流 相談文作成者は更に交流プラス

以上が、インタラクティブ・ライティングの流れである。図 4 はライティングとシェアリングの流れを図示したものである。従来の peer evaluation 活動に比べて、インタラクティブ・ライティングでは、読む動機の源となる意思決定と、互いの作品から学びあう相

互交流の本数が大幅に増加していることがわかる（表 1 参照）。学生の意思決定の機会が、作品への自己関与を高めると同時に、作品内容にバラエティを与え、それによって作品間に意見と情報のギャップを生んで、読む価値が生まれてくるのである。

図 4 . インタラクティブ・ライティングにおけるライティングとシェアリングの流れ

授業回数	当番学生	他の学生	意思決定	相互交流
第2回授業	相談手紙(1)(2)(3)(4)を執筆		<相談者> 相談内容の意思決定	
宿題	相談手紙(1)(2)(3)(4)のどれかにアドバイスを書く		<全員> 「どの相談に答えるか」の意思決定 <全員> 「どういうアドバイスをするか」の意思決定	<全員> 「人の相談を4本読む」という交流
第3回授業	同じ相談手紙にアドバイスしてきた学生で集まって作品を読みあいコメントしあう(sharing)		<全員> もらったコメントの取捨選択と、改良の自己決定	<全員> 「同一の相談に対する回答を5本読みあう」という交流
授業後	Sharingでもらったコメントをもとに、自分の作品に改良を施す 自分の書いた相談手紙への回答を回収して、全部に目を通す			
	回収した回答を読んだ感想を "What I learned from the classmates' responses" レポートにまとめて書き、提出		<相談者> クラスメートの回答から何を学んだかをreflectする自己決定	<相談者> 自分の相談への各アドバイスを読むという交流
回数の合計			全員の意思決定回数 3 回（プラス相談者の意思決定回数 2 回）	<全員> 合計 9本の作品と交流

さて、この方法で意思決定の機会が大幅に増加したわけであるが、それがどのように学生の、他の作品を読もうとする動機へとつながっているかを、学生の感想を見てみよう。

- ・与えられるテーマ内容が、自分と同じ学生が考えたものを使うということで、話題が身近でとても新鮮に感じられた。
- ・先生側から出されると、堅苦しかったり、あまり書きたくない内容のものもあると思うが、学生が内容を提案することにより、身近で現実味があり、他の人の意見を聞いてみたくなる。
- ・4つの中から好きなものを選べるという点が良かったと思う。英作文が苦手だという人でも、一番自分が書けそうだという内容の物を選択できるし、種類が豊富なのでどれにしようかと迷うところも楽しい。
- ・毎時間、他の学生の英作文と意見を読むことができ、本当によかったです。自分以外の学生の文を読む機会なんてあまりないし、みんなの文は自分とは全くちがいで、良い刺激になった。
- ・同じテーマを選んでいても、自分には無い意見のアドバイスがあったりして、読んでいてすごく楽しかったです。
- ・他の学生の文章を読むと、すごいなあと思える文章や文法使いを参考にできて、良い刺激になります。
- ・みんなに share して読んでもらうのは最初は恥ずかしかったが、ちゃんと読んで親切にコメントしてもらえて、自信を持つようになりました。
- ・何とか悩みに答えてあげようとして、相手のためになる文章を書こうと思うと、自然と秩序だって文章構成ができたので、力になったのではないかと感じます。
- ・この Interactive Writing で一番良かった点は、周りの人の意見・考え方を知ることができたことです。すごく良い意見・考えを持っている人とは友達になりたいと思うこともあり、自分の中では多くの良い発見ができました。

このように、学生同士が意見とコミュニケーション手段の面で互いに教えあい、刺激しあい、人間としての交流が育っていることがわかる。「読んでいて楽しかった」という感想

に、単なる peer evaluation との違いが凝縮されている。

人生相談に、アドバイスを書く方式は、取りかかりやすく、また学生の興味関心に訴えるので、インタラクティブ・ライティングの導入に適している。よく、アメリカの人生相談のコラムをコピーして英作文授業に利用する話を聞くが、必ずしも日本の学生の問題意識と合致しない。それよりも、学生が集めてきた相談文のほうが、より学生の日頃の問題意識を反映しており、これに答えを書きあうことによって、筆答コミュニケーション力を高めるばかりでなく、実際に学生の生き方を援助することにもなる。

次に紹介する男女の三角関係に関する人生相談は、筆者のクラスの学生の A さんが集めてきたものである。あとで教えてくれたことだが、実は A さんは友人の B さんの直面していた問題を相談に書いたのだった。この相談に対しては 12 名の学生がアドバイスを書き、全員が「そんな男は信用ならないから、やめなさい」という回答をした。A さんは、その回答を B さんに話し、B さんは思い切ってその男性との交際を絶ったという。「あの授業のおかげで、友人に適切なアドバイスができました」と A さんに感謝されたものである。

What should I do?

I'm 20 years old. I live with my parents. I work at a jeans shop. Now I'm in love with the owner of the shop. He's 27 years old. Sometimes I go to his house and stay there until the next day. He tells me to stay with him all the time. But he has a girlfriend in another place. He says, "She is cute but her character is completely opposite to you." "She never does housework." "She is O.K. for dating only, but not for marriage." Sometimes he asks me to marry him seriously. I love him from the bottom of my heart, so his words make me really happy. But he hasn't said good-bye to his girlfriend yet. He is also in debt for 3,000,000 yen.

Now I stay out of my home more often than before. My parents seem to suspect that I got a boyfriend. Each time I go out, I tell them that I am staying with my girl friend, but I feel very guilty. Also I cannot fully trust my boyfriend. I don't have courage to tell him, "Why don't you say good-bye to her?" What should I do?

Troubled woman in love

2) インタラクティブ・ライティングその 2 : For or Against (賛成か反対か)

基本設計は先述の「人生相談への回答書き」と同じだが、連続 4 回で積み上げてゆく方式である。

基本設計

活動テーマ：学生自らが設定したテーマで、賛成か反対か自分の意見を論述する。

所要時間：事前準備として合計 30 分、クラスでの SHARING として約 15 分（作文そのも

のは、宿題として書いて来る)が2回

指導手順: 1 回目授業でテーマ決め準備(5分) 2 回目授業でテーマ候補8つ決定(25分) 3 回目授業で4つのテーマについて作品を sharing(15分、これがメインの活動) 4 回目授業で残る4つのテーマについて作品を sharing(15分、メインの活動) 提出作品を教師が添削して次回に返却

(第1回授業で)

学生に、次回までにクラスメートと賛否を論じてみたいテーマを1つずつ考えてくるように指示する。参考として、過去の学生が挙げたテーマを見せる。なお、テーマは「---である」といった proposition(命題)の形で英文で書くこととする。(所要時間5分)

(第2回授業で)

学生が考えてきた proposition を、各自に黒板に書かせる。全員が書き終わったら、教師が1つずつ読み上げ、意味を確認する。意味が十分に通じない proposition は、作者に意図を確認し、教師が援助して通じるように書き直す。類似した proposition が複数出てきた場合には、代表的なものに一本化する。

次いで、学生の投票で上位8つの proposition を選ぶ作業に入る。クラス人数により挙手する回数は異なるが、30人のクラスでは、1人が気に入ったものに4回挙手するようにすると、丁度良く票が入る。しばらく各自に、何に投票するか考える時間を与えた後、挙手による投票を行い、挙手数を各 proposition の横に記入してゆく。挙手の多い順に順位を付け、上位8位までを当選とし、次週までに1位、3位、5位、7位の proposition のどれかを選んで、資料3の様式で自分の意見を論述してくるよう指示する。(次々週には2,4,6,8位の proposition を用いる。ただし、1度に扱う4つの proposition の内容的バラエティを取るために、この順番は変更することがある。)語数は学生の力量によるが、筆者は150~200語程度としている。(所要時間20分)

例えば、2005年度に筆者のクラスで選ばれた proposition ベスト8は下記のものである。

1. A husband should equally share housework and child-care with his wife..
2. Junior high school students should be allowed to carry mobile phones..
3. Our college should open a fast-food restaurant on our campus.
4. Cigarette sales should be totally banned in Japan.
5. English education should start in kindergarten.
6. Six-day school system is better than five-day school system.
7. The construction of Second Tomei Expressway is necessary..
- 8..University students should have a part-time job.

(第3回授業で)

第3回授業と第4回授業が、作品 sharing のメインの活動となる。学生は、今回用選ばれた4つの proposition から、自分の気に入ったものを選び、その賛否についてあらかじめ示された書式(資料3参照)に従って作品を書いてくることになっている。

やはり「人生相談への回答書き」と同様に、学生間で sharing を行う。Sharing の手順は全章(ア)～(カ)と同じである。最後に教員に提出 教員がコメントを書いて次回に返却

(第4回授業)

第4回授業では、選ばれた proposition の中の残る4つに関して、第3回と同じ手順で行う。最後に教員に提出 教員がコメントを書いて次回に返却

資料3 . For or Against の論述様式サンプル

(上段に proposition を書き、その下に考えられる賛成の根拠と反対の根拠を箇条書きにする。その下に、自分の主張を 100～150 語程度で書く。)

<p>For or Against (No.1)</p> <p>Proposition: University students should have a part-time job.</p> <p style="text-align: right;">Name:</p> <p>Pros 1. Students will learn how hard it is to earn money.</p> <p>2. Students can learn sense of responsibility through part-time job.</p> <p>3. Students can learn to communicate with people of different ages.</p> <p>Cons 1. Part-time job will decrease students' sleeping time and disturb studying.</p> <p>2. Some part-time jobs are dangerous.</p> <p>3. Students should concentrate on studying.</p> <p>My conclusion:</p> <p>I agree with the proposition. There are three reasons for this. First, you can find that it is hard to earn money. You will thank your parents for money they send you every month. If you earn much money, you can be independent from your parents and can buy what you want.</p> <p>Second, having a part-time job is a good opportunity to learn the sense of responsibility. It will be a good experience when you become a member of the society.</p> <p>Third, you can learn how to communicate with people of different ages. In Japanese society, you must use honorific words to your superiors and customers. You can practice how to use</p>
--

them through working with people of different ages.

Some say having a part time job will cut your time to sleep and you can't concentrate on your classes. If you worry about that, you can work only on weekends. If you work moderately, it will not disturb your student life.

For these reasons, I think university students should work part-time.

なお、このように、はじめに賛成論と反対論を箇条書きにする理由は、議論の全体像を把握させるためである。

3) インタラクティブ・ライティングその3: What Do You Think about This? (あなたはどう思う?)

学生がある事例・現象・事件についてクラスに問題を提起し、学生がそれに関する意見を書いて交流する活動である。

基本設計

活動テーマ: クラスメートが用意した問題提起文を読み、それに対する自分の感想を書く。

所要時間: 準備として約 10 分、クラスでの SHARING として約 15 分(作文そのものは、宿題として書いて来る)

指導手順: 1 回目授業で問題提起の準備(約 5 分) 2 回目授業で問題提起文 4 つ提示(約 5 分) 3 回目授業で問題提起への感想を sharing(これがメインの活動、約 15 分) 提出 作品を教師が添削して次回に返却

(1 回目授業で)

クラスの学生から 4 人を選び(指名または立候補) ある事例や現象・事件について問題提起の文を作成し人数分のコピーを用意するよう指示する。資料 4 のような提起文を提示し書式を解説する。(所要時間 5 分)

資料 4 . 問題提起文の書式サンプル

What Do You Think?

Dear Class,

Nowadays a book entitled "Make-Inu no Toboe" (Distant Howling of an Underdog) is making a big sale. It particularly sold well among young women last year. In this book, women are classified into either winners or losers. "Make-Inu" means women over thirty who cannot get married. On the other hand, "Kachi-Inu" is used for women who have a husband and children.

Both “winners” and “losers” have some worries. As to “winners”, they have a family and keep house for the family. However, their labor and care are not appreciated by their family, so they are not satisfied. “Losers” manage their job and they are trusted by their coworkers. However, they do not have a boyfriend and feel lonely when they are alone in their house.

What is women’s happiness? Can we really separate women into “winners” and “losers”?
What do you think?

Ayumi

2 回目～3 回目授業の流れは「人生相談への回答」と同じである。2 回目に 4 名の学生がそれぞれ作ってきた問題提起文を配布、3 回目授業で学生が提起文ごとに集まって share する。

4) インタラクティブ・ライティングその 4 : Responding to Controversial Articles (問題投書へのコメント)

物議をかもしそうな投書を選び、それについて学生が反論投書を作成する活動である。日本の学生は、投書への意見書きの課題を出すと、ほぼ全員が元投書への賛成論を書く傾向がある。しかも、元投書のメッセージ内容に対して “I agree....” と同じ意見を繰り返すに留まり、新しい視点やアイデアを貢献しようとする姿勢が弱い。そこで、この活動では敢えて「元投書に反論せよ」という課題を与える。反論を喚起するために、できるだけ物議をかもしそうな投書を用意することが大切である。

ところが、物議をかもしそうな投書は、日本の新聞にはあまり掲載されていない。ほとんどが、おおかたの読者の共感を得られるような投書ばかりである。一方、The Japan Times の投書欄(Readers in Council)には、結構日本人を真っ向から批判した投書が載っており、また 1 つの投書が幾つかの投書の連鎖を生むこともある。中には、日本に対する無知や偏見からの投書もあるが、学生が反論を書くにはもってこいの題材である。

例えば、2003 年 7 月 6 日の Japan Times には、下記の投書が載っており、これは日本人学生が respond したくなる、刺激的な内容である。

Words from a foreigner wasted

I’ve lived happily in Japan for the past 10 years, but apart from blatant racism by real estate agents and landlords, there is something that angers me deeply: When I order something in near perfect Japanese at a restaurant, the waitress nine times out of 10 will completely ignore me and ask my Japanese wife, “Would you like bread or rice with that?” Are there any waitresses out there who can enlighten me as to why this happens? I wonder what is going through their tiny minds. And it happens everywhere—from the supermarket to McDonald’s.

NAME WITHHELD, Kitaku, Kyushu

その 17 日後の Japan Times には、下記のように、この投書に対する読者の新たな投書が掲載されている。

Don't sweat the small stuff

Regarding the July 6 letter "Words from a foreigner wasted": I, too, lived happily in Japan for an extended period and experienced a similar sense of frustration with some Japanese waitresses. I don't know why some waitresses referred all communications through my Japanese wife, but it happens elsewhere. After returning to live in Australia a few years ago, we experienced the same problem in reverse. Waiters and waitresses, after seeing my wife and me together, would first try to decide who to take the order from. After a few false starts, they inevitably would refer to me, take the order and hastily move on to the next table. (中略)

In both cases, though, as our understanding of cultural and conversational norms developed and we learned how to assert ourselves in Japanese and English, the problem became much less of an issue over time. As frustrating as these experiences may be, I don't feel it's fair that we impose our cross-cultural baggage on every young waitress or waiter we meet. I don't imagine that they intentionally set out to invoke these emotions of frustration in us. They are just doing what they can do in a situation that they aren't that familiar with.

JAMES, Perth, Western Australia

このように、投書に反論するためには、それに賛成するよりも多くのエネルギーと知力を必要とする。なぜなら、反論するためには相手の意見を深く吟味し、その欠点を見つけ出し、反論を論理立てて組み立てなければならないからである。まさに、大学生が取り組むにふさわしい、論述課題と言える。

基本設計

活動テーマ：クラスメートが用意した刺激的な投書を読み、それに対する反論投書を書く。

所要時間：準備として約 10 分、クラスでの SHARING として約 15 分（作文そのものは、宿題として書いて来る）

指導手順：1 回目授業で投書書き準備（約 5 分） 2 回目授業で投書候補 4 つ提示（約 5 分） 3 回目授業で作品を sharing（これがメインの活動、約 15 分） 提出 作品を教師が添削して次回に返却

(1 回目授業で)

クラスの学生から 4 人を選び(指名または立候補) 刺激的な投書(読んだ人を憤激させ、反論しなくてはならなくする)を新聞や雑誌から探し出し、人数分のコピーを用意するよう指示する。刺激的な投書は英字新聞の Readers' Column によく載っている。日本語の新聞投書から取っても良いが、その場合には自分で英訳したものを用意する。提起文の書式を資料 5 のように提示する。なお、投書探しには時間がかかるので、投書さがしの指示は数週間前に出しておくといよい。(所要時間 5 分)

資料 5 . Controversial Article の書式サンプル

Some Students Want Their Teacher to Hit Them.

These days, teachers are not allowed to hit students. If a teacher did that, the teacher would be penalized. However, I do not think all the corporal punishments are wrong. On the contrary, I believe that teachers need to give corporal punishment for love according to occasions.

When we were children, we were hit or slapped by parents and teachers when we did wrong things. In those days, nobody called it violence. People understood that it was a sign of love and care. Even we children thanked for the punishment, because otherwise we might have become really bad people.

When I hear that all corporal punishment are punished as crimes, I worry how adults can correct children's misbehavior when they don't have ears to listen to. I am sure some students want their teachers to hit them.

Noboru Ikeda, Aichi, 75 years old

次いで資料 6 のように、反論投書の見本を与え、これに倣って反論投書を作製するように指示する。

資料 6 . 反論投書の書式サンプル

The Important Thing to Change Students' Mind

I would like to respond to Noboru Ikeda's article entitled 'Some students want their teacher to hit them' on June 15. In his article, he says that at first he thought it bad for teachers to hit students, but he changed his idea after he knew that a student wanted teachers to do so. I disagree with him on several points.

First, in my opinion, it is very difficult to decide what is good violence and what is bad violence. For example, there was a male teacher who often hit his pupils when I was a schoolgirl. One day, a boy did his class job at the hallway. That was during the morning study period. So the teacher hit him as he wasn't in the classroom at that time. I think this was bad violence because the teacher did not need to hit him. The teacher could have pointed out that the boy had to study in the classroom during the morning study period. In the classroom, there is only one teacher and there is no one who judges what is good violence and what is not. If teachers hit their students for unjust reasons, the students will not change their mind, but get hurt terribly.

Second, I think that teachers need to ask their students why they did bad things. Some students misbehave because they want their teacher to notice their pang. In such occasions, it is not good for teachers to try to change their mind by hitting. They may feel that their teachers ignore their feelings.

Last, from my point of view, it is meaningless that teachers hit their students from their emotion. That is because it is very important to establish reliable relationship between teachers and students in order to change students' mind. If teachers hit their students with their egotistic emotion, they cannot be trusted by their students. Students can believe those teachers who understand their feelings. Also they can change their mind by themselves when they get to believe their teachers.

There may be some students who change their mind by being hit. But I believe that the most important thing for teachers is to contact with their students sincerely. Violence has only temporary effects. If teachers really want to change their students' mind, they need plenty of time and big consideration for their students. (406 words)

N.H., Shizuoka-shi

(下線部のように、誰の何日のどういう内容の投書に対して、どういう立場で意見を述べるかを冒頭に簡潔に述べて書き始めること。)

2 回目～3 回目授業の流れは 1. 人生相談への回答 と同じである。2 回目に 4 名の学生が元

投書を配布、3 回目授業で学生が元投書ごとに集まって share する。

5) インタラクティブ・ライティングその 5 : 外国人からの " Why? " に答える

日本人の行動や物の考え方について、外国人からの意外な質問を読み、それに対して自分で答を考えて書く活動である。外国人からの質問を選ぶ際には、決まった答が無くオリジナルな思考を要求する質問を選ぶことが重要である。それによって、学生答に創造性とバラエティーが生まれるからである。

基本設計

活動テーマ：外国人から日本人の行動ぶりへの質問に対して、納得できる説明を作成する。

所要時間：準備として 15 分、クラスでの SHARING として 15 分が 2 回、(作文そのものは、宿題として書いて来る)

指導手順：1 回目授業で外国人の質問とそれに対する答えの書き方サンプルを見せる(15 分) 2 回目授業でテーマ決め (20 分) 3 回目授業で作品を sharing (15 分、これがメインの活動) 4 回目授業で更に別テーマで作品を sharing (15 分、メインの活動) 作品を提出 提出作品を教師が添削して次回に返却

(1 回目授業で)

外国人がよく発する日本に対する質問の一覧を配り、そのうちクラスで互いに答を交換してみたいと思う質問 8 つを選んでくるように指示する。なお、外国人の質問は、明海大学大学院教授の山岸勝栄先生のホームページ

(http://jiten.cside3.jp/gimon/seminar_xx.htm)に掲載されたものを利用させていただく。ここには 220 個の質問が掲載されている。

学生の興味関心を喚起し、質問への答え方の手本を見せるため、外国人の質問の例 (資料 7) と、それに対する editor の回答 (資料 8) を見せる。

資料 7 . 外国人からの質問の例

Question to Japanese:

Why Do Japanese Landlords Refuse to Let Apartments to Foreigners

Question: I am a foreign student studying at a college in Japan. I enjoy my college life except one thing. Whenever we foreign students try to rent an apartment, we face racial discrimination from apartment owners and real estate agents. They have a lot of signs advertising vacant rooms in their shop, but when we ask for a room, they flatly say, "Sorry, there is no vacancy." It is obvious they don't want to let their apartments to foreigners. Why is this? Can such discrimination allowed in a civilized country?

Alienated Foreign Student

資料 8 . 外国人の質問への回答の例

Dear Alienated,

I admit that such a practice is common among Japanese landlords. We often hear similar complaints from foreigners. I don't think such a racial discrimination is justifiable. However, I would like to quote why Japanese landlords don't like to have foreigners in their apartments.

First, most landlords are afraid of troubles caused by language barrier. They don't think they can have necessary communication with foreign tenants when the tenants have problems with rent, noise, diseases, crimes, damage on the facility, etc.

Second, many of them have a bad stereotype of foreigners, especially concerning cleanliness. They believe that all foreigners, regardless of their race or nationality or culture, make their apartment dirty and throw away garbage all over.

Third, many of the landlords don't believe foreign tenants will keep their promise to pay their rent in time. They suspect that some of the foreigners will stay in their apartment for several months and one day suddenly disappear without paying any money for their rent, electricity, water service, or gas charge.

What the landlords fear is not reasonable when we think of the presence of the tenants' sponsors. When people rent a house or an apartment, they ask somebody to be their sponsors, and the sponsors promise the landlord to compensate for the damage caused by the tenants. Therefore, the landlords can demand the sponsors to act as liaison for the above first problem, and to compensate for the second and the third problems I have described above.

To conclude, Japanese landlords are wrong in refusing foreigners as their tenants if they have sponsors. Also, the government and municipal administration are partly to blame for overlooking such racial discrimination. Particularly, administration should pay more efforts to mediate among foreigners looking for apartments, landlords, and real-estate agents. Unless this problem is solved, Japan can never be called an 'internationalized' country.

Masahiro, Kanagawa

(2 回目授業)

外国人の質問リストに学生が挙手する形式で、上位 8 位の質問を選ぶ。クラス人数により挙手する回数は異なるが、30 人のクラスでは、1 人が気に入ったものに 6 回挙手するようになると、丁度良く票が入る。挙手数を各質問の横に記入してゆく。順位を付け、上位 8 位までを当選とし、次週までに 1 位、3 位、5 位、7 位の質問のどれかを選んで、自分の回答を書いてくるよう指示する。(次次週には 2, 4, 6, 8 位の質問を用いる。ただし、1 度に扱う 4 つの質問の内容的バラエティを取るために、この順番は変更することがある。) 語数

は学生の力量によるが、筆者は 150～200 語程度としている。

例えば、2005 年度に筆者のクラスで選ばれた質問ベスト 8 は下記のものである。

- 1．日本人はなぜ、職場の机などに自分の妻・夫・子供などの写真を飾らないのか。
- 2．日本人夫婦はなぜ、人前での愛情表現を好まないのか
- 3．日本人はなぜ、他人与異なる意見を持つことを嫌うのか。
- 4．日本人はなぜ、「私には・・・の能力がある」「私は・・・を得意としている」と、自分を誇るようなことを言わないのか。
- 5．日本の高校生はなぜ、大学にはいると急に勉強しなくなるのか。
- 6．日本人はなぜ、他人の子が悪いことをしている現場を見ても「見て見ぬ振り」をするのか。叱るべきではないのか。
- 7．日本の女の子はなぜ、皆同じような化粧やファッションをするのか。また、なぜ、電車内などで化粧をすることに恥ずかしさを感じないのか。
- 8．日本人はなぜ、すぐに他人の血液型や星座を聞いたがるのか。

(3 回目授業)

学生は、選んだ質問ごとに集まり、回答を share する。終了後作品を提出 教師がコメントして次回に返却する。

(4 回目授業)

残る 4 つの質問について、解答を share する。終了後作品を提出 教師がコメントして次回に返却する。

6) 教師フィードバックのあり方

学生の英作文作品に対する教師のフィードバックコメントは、学生の作文力を向上させるだけでなく、英作文そのものを好きにさせる上で非常に重要である。従来型パラグラフ・ライティング指導とインタラクティブ・ライティング活動を並行して行う際には、次のようにフィードバックを使い分けることが望ましい。

ア) 従来型パラグラフ・ライティング指導では、内容だけでなく形式(段落間構成・段落内構成・表現の正確さ・スペリングの正確さ)も完成度の高い作品を要求し、教師フィードバックもそれに応じて正確さ重視のコメントを与える。評価は内容的価値と表現の正確さに関して、緻密に行う。

イ) インタラクティブ・ライティング活動では、教師も学生との相互交流の一環としてのフィードバックを与える。学生作品に一読者としてコメントすることをメインにし、英文添削は軽くてよい。一読者としてのコメントは、共感的理解を示しカウンセリング的に行うとよい。たとえ教師の信念に反する内容であっても、首尾一貫しておれば良しとし、批判を加えることは差し控える。この理由は、教師が自分の書いた意見そのものにアタックしてくると、学生はそれへの恐怖から、筆が進まなくなってしまうからである。

ゆるやかな総合的評価を与えて次回に返却する。総合的評価は、内容・英文共に良くてきたものを A、やや不備のあるものを B とする。C はめったに付けないが、あきらかに力を抜いて書かれており十分なアドバイスとして成立していないものに付ける。

一読者としての共感的コメントの例：

(人生相談への回答) 楽しく読ませてもらいました！「お金を返して」と言う時の実際のセリフや交渉の流れまで教えていて、親切なアドバイスですね。

(For or Against) ファーストフードレストランを学内に作ると、テイクアウトのゴミが増えるという指摘は、反対の有力な根拠になりますね。

(What Do You Think?) 「勝ち組」「負け組」といった呼び名が、人生を外形優先で判断する浅薄な態度を世の中に広めているという指摘ですね。このことを指摘したのは君だけです、貴重な指摘だと思います。

(問題投書へのコメント) なるほど、元投書は悲観的かもね。君の言うように、ジェンキンスさん夫妻の子供たちは、日本と北朝鮮の掛け橋になると考えれば、前向きですね。

引用文献

山岸勝栄「日本の言語文化に関する外国人の疑問」

http://jiten.cside3.jp/gimon/seminar_xx.htm (2005 年 10 月 1 日ダウンロード)

The Japan Times. July 6, 2003.

The Japan Times. July 17, 2003.